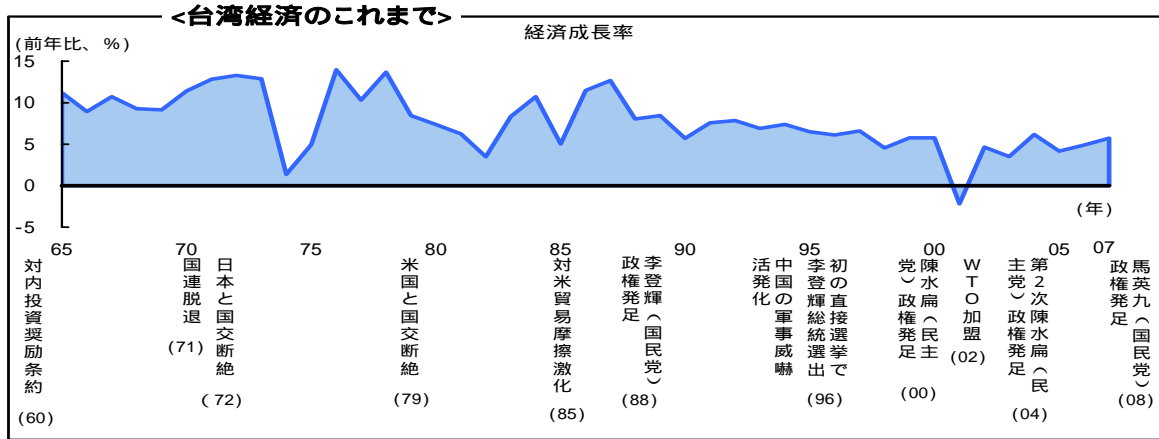


5 台湾

Taiwan

<2007年>

人口	2,296万人 (日本の約1/6)	財政会計年度	1月～12月
一人当たりGDP	16,855ドル	為替制度	変動相場制
産業構造(GDP構成比)	1次産業 1.4% 2次産業 27.5% 3次産業 71.0%	通貨	台湾元 1米ドル = 32.842台湾元
		面積	3.6万km ² (九州とほぼ同じ)



台湾の主要経済指標

		97～06年	2007年	2008年見通し			2009年見通し			民間機関見通し
				当局	A D B	I M F	当局	A D B	I M F	
実質GDP	前年比%	4.3	5.7	1.9	2.4	3.8	2.1	1.7	2.2	実質GDP
個人消費	同上	3.7	2.3	0.3			1.9			2008年
民間投資	同上	5.8	3.2	7.8			2.9			平均 2.9
鉱工業生産	同上	4.7	7.8							最大 4.2
消費者物価	同上	0.8	1.8	3.6		3.7	0.4		1.0	最小 1.6
失業率	%	3.9	3.9							
経常収支	億米ドル		329.8							2009年
(GDP比)	%		(8.6)							平均 1.5
財政収支	億米ドル		88.8							最大 4.3
(GDP比、年度)	%		(2.3)	(1.8)	(0.1)		(1.1)	(1.1)		最小 0.5
当局債務残高	億米ドル		1,179							
(GDP比、年度末)	%		(30.8)							(24社)

(備考) 1. 行政院主計処、經濟部統計処統計。当局見通しは行政院主計処(08年11月)、A D Bは“Asia Economic Monitor 2008”(08年12月)、I M Fは“Regional Economic Outlook”(08年11月)による。
2. 当局債務残高は中央の債務。

<2008～09年の経済>

2008年をみると、1～3月期の経済成長率は、IT関連財を中心とする好調な輸出がけん引し、民間消費等の内需も堅調に推移したため、前年同期比6.3%となった。しかし、4～6月期は同4.3%、7～9月期は同1.0%と世界経済の減速が強まるにつれて輸出が伸び悩み、内需も低調に推移したため、景気は急速に弱まった。また、消費者物価上昇率は、国際商品価格の高騰を背景に、7月をピークに上昇したが、8月以降は鈍化している。こうした中、世界金融危機の発生に伴い景気悪化への懸念が強まっていることから、中央銀行は9月に金融緩和に方針を転じた(9～12月には計5回利下げ、3.625%→2.000%)。

08年通年の経済成長率は、輸出が9月以降前年比で減少していることなどから、2%台と見込まれる(当局見通し1.9%、民間機関24社の平均2.9%(08年12月時点))。また、09年は年後半にやや持ち直すとみられるものの、通年では08年と同程度の成長率が見込まれる(当局見通し2.1%、民間機関24社の平均1.5%(同上))。